

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和2年度第10回 理事会議事録

令和2年12月22日（火）20:00～21:40

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、  
田中信弘、筑田博隆、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、波呂浩孝、  
松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

※ 会議は web 会議で行われた。

1. 理事長挨拶

松山理事長が、開催が近づいてきた第50回学術集会にフォーカスして盛り上げていきたいと提案し、一同賛同した。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

松山理事長が、前回議事録について確認を求めた。追加で修正等ある場合は、渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（11・12月分）

11・12月の入退会について全員を承認した。

3. プロジェクト委員会より：新規プロジェクトである腰曲がりの運動療法研究予算について

新プロジェクトである腰曲がりの運動療法について、学会の倫理委員会の審査が完了したことが報告された。今期は予算がついていないが、初年度の280万円程度の予算を審議したうえで、前倒して年明け早々に研究を開始することを承認した。

4. 第55回学術集会会長の件

第55回学術集会会長立候補を公示の期間受付、1名申請があったと報告した。

申請者 永島英樹（鳥取大学整形外科）

申請の付随書類も提示され、一同検討の結果承認した。

## 5. その他

### ・安全医療推進委員会 委員長を補佐する委員の追加委嘱について

前回理事会で追加が承認された「委員長の補佐を行う委員」について、以下を推薦した。  
町野正明 医師（名古屋大学整形外科）

一同検討の結果、承認し、本日より委嘱を開始することになった。

## 審議・報告事項

### 1. 学術集会プログラム等検討委員会報告：第 50 回学術集会準備状況報告

以下のことが報告された。

演題は 1,350 題の応募があり、1,016 演題を採用した。（採択率 75%）

ポスター発表については、コロナ対策として基本的には貼りだしのみとするが、査読点数の高かった 20 題をミニオーラルにして賞を出す予定である。

また、未来志向の 3 つの主題セッション（「私が是非伝えたい教訓的症例」「未来を変えるかもしれない思いつき、試み」「脊椎脊髄疾患の革新的画像診断」）から賞を出すことも予定しており、それらの審査は理事へ依頼する予定である。

開催方法として、現地参加のほかに LIVE、web での視聴をどのように行うかなど、見積等をコングレと相談している。e ラーニングは構築や運用に多額の費用が必要になること、第 49 回 JSSR 学術集会での日整会単位発行や web 参加の状況、他学会の状況、会場や機材の経費の件等を検討し、web 参加の場合日整会単位は付与しないことになった。

### 2. 安全医療推進委員会報告

抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクについては徳島大の酒井委員を中心に進めており、近々徳島大と JSSR の倫理委員会に倫理審査を申請予定である。

酒井委員は日整会の安全医療推進委員から外れたが、西田理事と西良理事が委員会に入っており、引き続き日整会とも連携し情報を共有していくことで一同賛同した。

### 3. 社会保険システム等委員会報告

外保連試案改正の件で以下 4 点が報告された。

#### 1. 部位別椎弓切除、形成術、内視鏡椎弓切除、椎弓形成

試案の改正を提出したが、以前の数値とかなり乖離（減少）があるとして、あえて申請しなくても良いとの判断があった。同様に PPS もオープン PS に比べると点数が減少するので、あえて申請しなくてよい可能性あり。

#### 2. ステミラック注の投与

ステミラック注の投与に係る手技料は、キムリア点滴静注と同様の手技であることから、「K922-2 CAR 発現性 T 細胞投与 30,850 点」を準用しての「自己骨髄由来間葉系幹細胞移植術」としての新規作成が適切。

#### 3. コンドリアーゼ

2020 年診療報酬改定で、整形外科・脳外科標榜の病院（有床診療所外れる）、10 年以上経験を有する常勤医師 1 名配置の要件が設置された件で、厚労省医療課と協議するも途中変更はほぼ不可能との回答。新たな試案を目的に、PMS データを基に 2022 年度要望書を作成予定。

#### 4. 日本脊髄外科学会(NSJ)からの試案申請

NSJ から脊髄血種除去術（術後硬膜外血腫の除去術）と顕微鏡使用脊柱管拡大術について申請があった。脊髄血種除去術については今までなかった術式であるが、顕微鏡使用脊柱管拡大術については、対面式顕微鏡下で2名の術者で実施するところを術者3名と記載するなどの問題点がある。学会として外保連手術委員会に嘆願書送付などを検討したい。

松山理事長が、嘆願書も検討するが一度 NSJ の社保委員会と打ち合わせてみてほしいと依頼し、大鳥理事が承知した。

#### 4. 倫理委員会報告

プロジェクト研究の審査状況として以下2つの審査を終了したことが報告された。

- ・腰曲がりに対する運動療法のエビデンス創出に関する研究
- ・Meyerding 分類1度腰椎変性すべり症に対する除圧術と椎体間固定術の費用対効果に関する検討 —5年追跡

上記についてはどちらも承認となったため、研究実施計画書、倫理審査結果通知書（承認書）を学会ホームページに公開済。

また、現在

- ・成人脊柱変形患者に対する脊椎矯正手術の費用対効果の検討を審査中である。

#### 5. 広報委員会報告

JSSR のホームページ内の「主な治療法」の項目に「椎間板内酵素注入療法」についての記載追加を予定しており、掲載文章については委員会審査が完了したことが報告された。また、ホームページ内の挿絵は、18点の著作権が明らかではなかったため描きなおし中で、予算としては20-30万円程度となる。ラフ画等を確認しイラスト修正・掲載予定である。動画掲載については、会員以外は閲覧不可の「会員マイページ内」で配信する方向で調整を進めている。

#### 6. 指導医制度委員会報告

今年の指導医新規申請者108名の審査については、コロナ禍の影響も著しいため、Zoom や郵送、メール審議等を組み合わせて行ったことが報告された。

審査で保留となった案件としては、以下のようなものがあった。

<保留理由>

- ・提出症例に小手術（BKP、ロッド交換、排膿など）が含まれる
- ・脊椎に関連しない業績の提出
- ・申請書類の不備（申請者自身の年齢不記載、代表症例一覧なし）
- ・手術記録に術中所見の詳細記録なし
- ・提出代表症例の偏り（代表30例がほぼ内視鏡（MEL MED））
- ・推薦状の不備

今後の審査スケジュールとしては、例年通り1月の理事会で合否を報告すべく、再審査等を行っていく。

その他の検討事項として指導医新規申請時の業績について、現在の業績（筆頭演者あるいは筆頭著者1編、ほかは共同演者あるいは共著者4編で可）は「指導医」として相応しくない

のでは、との問題提起があったことが報告された。

波呂理事が、評議員はアカデミックな業績重視で、指導医は臨床経験重視としていたため、指導医における業績のハードルは上げすぎないほうが良いのではと意見を述べた。また NSJ にも指導医制度があるので、そちらの指導医の制度も参考のうえ、委員会で再考してはどうかと提案し、一同賛成した。

また、来年の JSSR の脊椎脊髄病研修コース I は、今年の更新者が全員猶予になったことや例年以上の参加者を現地に収容するのが難しいこともあり、現地参加を希望しても参加できない恐れがあるため、脊椎脊髄病研修コース Web 開催の動向をみて対応することとなったと報告した。

松山理事長が、e ラーニングは必要ないので、Zoom ミーティングで開催し、参加者のログを取ることで問題は解決するだろうと提案し、西良理事が承知した。

## 7. JSR 編集委員会（長谷川理事）（資料 10）

HP 上に転載許諾申請のページを追加したことにともない、投稿規定の一部を修正したことが報告された。修正内容としては従来は「教育、研究、学会活動を目的に著者（共著者を含む）が論文・講演原稿の全部もしくは一部の複製を行うこと」としていたが、このようにしてしまうと二重投稿が可能になってしまうため、下線部分を「一部（画像・図・抄録・本文の一部）」としたと報告した。

また JSR の HP 内のバナー広告については、1 社は更新希望を確認したが他 3 社についてはまだ確認が取れていないと報告した。

事務局から提案のあった、事務局お知らせ・JSR・SSRR などのニュースレター（NL）にバナー広告を掲載する案について審議され、実施の方向で検討することになった。

## 8. 英文誌編集委員会報告

現在の初回査読終了日数や、accept までの平均日数、投稿や被引用状況、今後の発刊予定などが報告された。さらに 2020 年はコロナ禍の影響で投稿数が 205 件と倍増したこと、IF は暫定的に 0.6 となっていること、MEDLINE に申請中であり収録されれば in press の論文も PubMed 上で検索が可能となることなども報告された。

## 9. 国際委員会報告

以下 4 つの団体等との現状について報告された。

### ・ SAS2021

現状開催の方向であるため、JSSR としては最低限寄与していく方向で、委員と理事にシンポジウムの講演を依頼し 6 シンポジウムを決定した。

### ・ APPS-APPOS2021

ハイブリッド形式での開催が決定。一般演題について、まだ 27 演題しか集まっていないので、理事の施設から各 2-3 演題の提出をお願いしたい。予算については、昨年の APSS Basic Course Tokyo の残金 200 万円を移動完了。

### ・ KSSS

5 名のトラベリングフェローの演題を韓国へ連絡、フェローに抄録登録を依頼した。

### ・ Spine 20

JSSR としての正式な支援は表明せず、今後も Spine20 の活動の情報を得つつ、どのような支援が可能かを検討してほしいと先方へは回答済み。大阪市大の玉井先生が個人の意思で

協力をしているので、JSSR として今後玉井先生を支援する方向性を考えていく。

## 10. 新技術評価検証委員会報告

NuVasive 社より XLIF Cadaver training のパートナーサージョントレーニング代替案について提示があり、委員会で審議し妥当と認めたことが報告された。

ALIF cage (BASE) の本邦導入については、半側臥位等の別の体位での手術へ移行する場合には再度審議を行うこととなった。

LIF 合併症調査 については 5 年で終了となることから、JOANR で行う医療安全合併症調査とは独立して対応していくこととなった。

社会保険検討委員会から依頼のあった BKP の適応拡大には添付文書の改正が必要であり WG から出された案をもとにメーカーと PMDA で協議いただくこととなった。

各 WG の報告がなされた。

## 11. その他の委員会報告

### データベース委員会報告

データベースシステムは、来年秋をめどに合併症調査から進める予定であり、登録施設は JSSR の指導医が在籍する施設を予定していると報告された。

## 12. その他

### ・グローバスメディカルからの手紙

松山理事長が、グローバスメディカルより届いた最近の報道についての手紙を提示した。日整会や当学会からもお知らせを出しているが、個々で気を付けていきたいと発言した。

### ・第50回学術集会時の現地での委員会開催について

松山理事長が、第50回学術集会時に会場である京都で委員会の開催を希望するようであれば、事務局で希望をまとめると発言した。

### ・寄付について

松山理事長が、ニュースレター同様に、理事会メンバーから企業へ声掛けを行うために、調整を行うことになった。また近日 JSSR への寄付を予定している企業3社について報告がなされた。

### ・次回理事会の件

松山理事長が、次回は1月25日（月）とすると発言した。

以上

令和2年12月22日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭